

## 副校長及び分掌主任がリードする、学校経営計画の着実な実施

### 実践事例

学校経営計画を着実に実施し、校長が描く目指す学校像を実現するためには、副校長のリーダーシップの下、所属教師の協働体制を確立することが重要です。体制づくりに必要なのは、目標への意思の統合とコミュニケーションの活性化です。

まず、副校長が学校経営計画の中から当該年度に重点的に取り組むべき事項とその達成目標を一覧にした「重点項目整理表」(別添)を作成します。作成に当たり、副校長は校長とのやりとりを重ねる中、校長の意向をより深く理解するようになります。



次に、副校長は「重点項目整理表」に基づき、当該の分掌主任に対して、具体的教育活動の策定に関する指導・助言を行います。主任は分掌内の担当教師に「課題別カード」(別添)の作成を指示します。「課題別カード」には、学校経営計画の実現に向け、各分掌が取り組む具体的教育活動の計画を記載します。主任はその作成過程を見守り、相談に乗る、援助する、課題を与える等の育成の手法を使い分け、担当教師の資質・能力を高めていきます。

教育活動の実施に当たり、主任は「課題別カード」を用いて担当教師と適宜協議を重ね、職務の進捗状況や当面の課題を確認した上で、必要な助言を行います。教育活動が終了したら、年度末を待たずに評価を行い、達成できなかった事項について、各担当教師と共に原因を究明し、次年度の改善につなげます。

「重点項目整理表」と「課題別カード」は、目標達成に向けたコミュニケーションツールです。両資料を作成・活用する過程で、教師の意思は学校経営計画の実現に向け統合されていきます。管理職相互、管理職と分掌主任、主任と担当教師との双方向のやりとりは活発になり、若手をはじめ多くの教師の学校経営への参画意識が向上します。

### リーダーの最も大切な仕事

シンクタンク・ソフィアバンク代表 藤沢久美

リーダーの最も大切な仕事は、ビジョンをつくり、それをメンバーに浸透させることなのです。

出典：「最高のリーダーは何もしない」(ダイヤモンド社)

※ 校長の場合、学校経営計画の浸透こそ、最も重視すべき仕事と言えます。